

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	TRIBAL FIRE	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.037	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：TRIBAL FIRE

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：TRIBAL

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

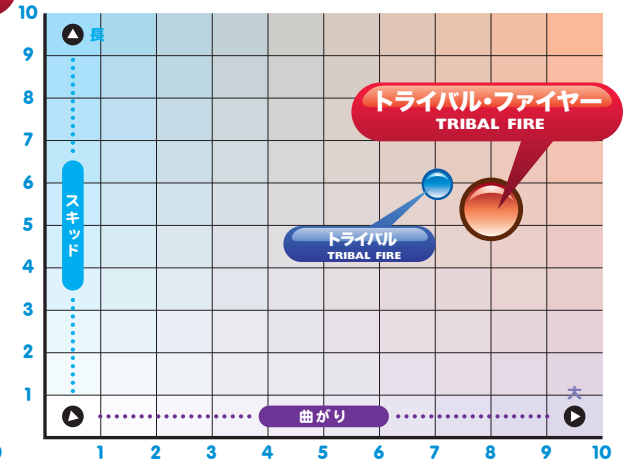
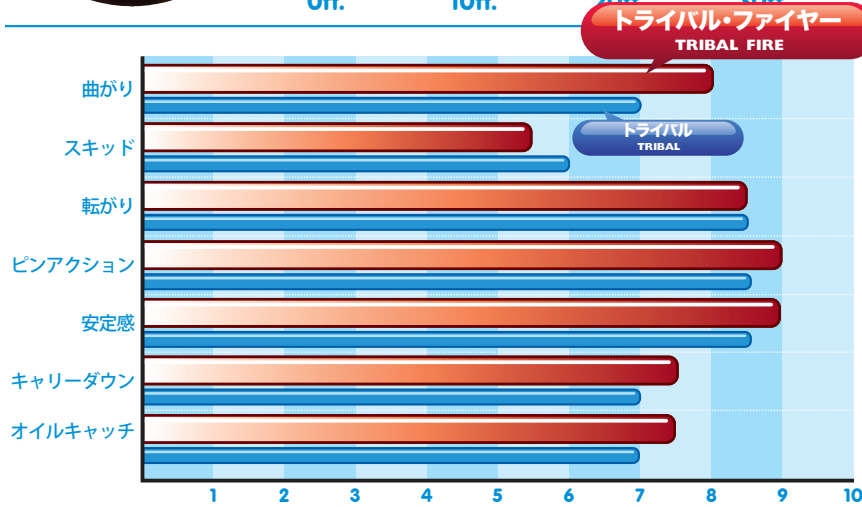
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



ボールの評価

一世を風靡したPrimal Rageから急激に日本のマーケットでのシェアを広げたMOTIVマテリアルは、Covert RevoltでMOTIV社最高の売上を更新し、今も再入荷を繰り返しています。今回のTribal Fireは前作発売されたTribalのHybrid Reactiveバージョンで、Light Mediumコンディションと領域は変わらないのですが、初代Tribalにはない良さが見られるようになりました。投球した印象は、初代Tribalに比べオイルに対しての強さが強化されているように感じ、Light Mediumコンディションというよりは、Mediumコンディションが主な領域になっているように感じました。Pearl ReactiveからHybrid Reactiveへの変更は、軽さを感じたスキッドからややキャッチを伴うスキッドに変わり、曲がり始めが早まることでTortal Hookも増えました。もともとTribalに使用されているHalogen Coreは先でやや角がでるようにシャープな切れ味が特徴でしたが、今回のTribal Fireはカバーストック変更でキャッチが強まったことで、スキッドのブレーキが効き、明確に曲がり意識できるように感じました。このような違いがあれば、Tribal FireからTribalへのボールチェンジも可能ですし、Light Mediumコンディション用という領域も疑問を抱くほど、MOTIVらしくパフォーマンスがでていることに好感を持ちました。

またMOTIV社製の最近の傾向である”終わらない曲がり”のイメージもあり、フックからロール期、フィニッシュの軸の起き方がスムーズかつしっかりして見えるので、ピンを飛ばしやすい角度に自然と向かうイメージでもあります。

Red/Orange Pearlの配色がFireを連想させるぐらい綺麗にまとまっており、まず色目を見ただけで”欲しい!”と思うはずです。

特記事項

Pearl Reactiveから初めてのHybrid Reactiveへと領域を広げたFusion™マテリアル。Halogen Coreを心臓部に、また新たなパフォーマンスをこのTribal Fireで魅せることになるでしょう。